

令和 5 年度 横浜市社会教育コーナー 管理運営報告書

事業対象施設:横浜市社会教育コーナー 横浜市磯子区磯子 3-6-1-1

事業期間:令和5年4月1日~令和6年3月31日

管理運営団体:特定非営利活動法人 夢・コミュニティ・ネットワーク

1 生涯学習・地域活動団体へ安全・安心な場の提供

(1)開館日数:346 日

休館日(原則毎月第1月曜日&年末年始 全20日)

(2)利用率・利用人数・利用コマ数(別紙:利用状況年間報告書)

(3)登録団体数:356団体(令和6年3月31日現在)

分野	登録数	分野	登録数	分野	登録数	分野	登録数	分野	登録数
テニス	108	ダンス	39	合唱	33	市民活動	17	絵画	16
楽器演奏	15	太極拳	13	読書・朗読	12	体操	11	自治会・ 管理組合	11
健康福祉	9	多文化共生	8	外国語	8	卓球	7	青少年育成	6
手工芸	6	俳句・短歌	5	書道	5	子育て支援	4	生け花・フラワー アレンジメント	4
ヨガ	3	演劇	2	歴史文学	1	武道	1	パソコン	1
詩吟	1	ゲーム	1	囲碁・将棋	1	その他	8		

利用者・団体の変化

- ・コロナ禍も落ち着き、活動を控えていた団体が活動を再開し始めている。全体の登録団体数は令和4年度には365団体あったのが、令和5年度は356団体と減っている。
- ・新規利用登録団体総数は61団体(令和4年度は53団体)うち、37団体がテニスの団体(令和4年度は25団体)で、そのうち外国の方による登録が3団体あった。
- ・テニスの他にも福祉団体、子育て、散歩、ヨガ、芸術、文化、楽器、読書活動、演劇等多様な活動団体が新規に団体登録し、活動を開始している。

2 施設の防災・防犯対策

(1)緊急時の対応

- ・施設内で火災が起きた場合は初期消火、消防署への連絡をし、地震の場合は、負傷者への対応をし、利用者を風上方向のスポーツ広場又は外へ避難させ、市教委へ連絡する等、具体的な避難経路と手順を訓練で確認した。
- ・事務所内にある AED について、その取扱い方を消防署職員から指導を受けた。人形を使い、実際に救急法の訓練を行った。

消防訓練:6月5日

(2)施設内の消火器設置場所、避難をする際の非常灯の場所は日々の業務の中で確認している。

(3)UR 都市機構より消防立ち入り検査を令和5年10月に行い、消火器、自動火災報知機設備、誘導灯の確認、事務所内カーテンの取り外し(防災性がなかったのを)を行い、磯子消防署長に報告した。

(4)その他の災害対策「磯子区洪水ハザードマップ」「土砂災害ハザードマップ」によると、社会教育コーナーの北西100mに土砂災害警戒区域がある。また「内水ハザードマップ」では1時間約150mmの雨で内水氾濫が起った際、2cmから20cmの道路冠水相当となることがわかっている。浸水時や地震の際の避難場所は磯子区役所となる。また、地域防災拠点森東小であることをスタッフ全員で地図を用いて確認している。

3 生涯学習・社会教育に関する相談・コーディネート・情報提供

全相談件数(69件)

4月(5件)、5月(6)、6月(5)、7月(4)、8月(5)、9月(7)、10月(6)、11月(6)、12月(6)、1月(7)、2月(6)、3月(6)

- ・窓口で何か活動をしたい、団体に入って何か活動を始めたいという方やふらっとコーナーに入ってきて、掲示物を見たり、団体の会員募集のチラシを見に来る方が増えた。窓口に来なくても掲示を見ている方にはなるべく声をかけ、どのような活動を探しておられるのかを伺い、団体やサークルの紹介、イベント・講座等の情報提供を行っている。
- ・一時活動を控えていた方がまた活動をしたいと来所されたり、以前とは異なる活動、新しい団体を探す方も見受けられる。
- ・生涯学習文化財課主催「社会教育研究会」のファシリテーターの研修を5月24日に1回、その後8月22日には社会教育コーナーで1日かけてファシリテーターの実践体験の研修を実施した。
- ・同課の区の課題に対応する出前研修では、3区(栄、南、中区)へ出向いた。研修では職員やスタッフが日頃課題と捉えている内容について、ワークを行いながら職員同士で話し合い、解決の糸口とした。

4 社会教育コーナーの評価・検証

(1)利用者会議(別紙「令和5年度横浜市社会教育コーナー利用者会議報告書」参照)

- ・社会教育コーナーの運営も2年目となり、利用団体の人たちとも顔の見える関係ができてきている。現在利用している各分野の登録団体の代表者による交流会を実施した(令和6年2月8日)。

会議では、美術、テニス、体操、文化活動、合唱、の分野から各々代表の方が来られ、日頃から関心のあることやこうなるとより良いという提案をいただいた。参加者同士も他分野の活動を興味深く聞きあい、他の団体との交流や発表の場を求める声もあった。また、抽選会や予約の電子化などの話しも出て、他の施設では IT 化が進んでいることも話題に上がった。

(2)利用者アンケートの実施

- ・利用者にとって、より快適な施設となることを目的に、利用者の意見を聞く「利用者アンケート」を実施。結果についてはグラフにまとめ館内に掲示するとともに利用者会議で報告した。総数 202 名
- ・窓口での対応については「わかりやすい」「対応が良い」が 95.9%と高評価を得た。
- ・利用する手続きや予約方法については、72.6%が「現状のままで良い」であった。同時に、インターネットでの予約を希望する意見も複数あった。

(3)事業アンケート や講座実施の最後に受講者に向けてアンケートを取り集計している。

講座開催を何で知ったか、講座やイベントはどうだったか、居住区、今後どのような講座があると良いかなどのニーズ把握の情報源としている。

(4)窓口にご意見箱の設置。利用の点検確認票に職員への連絡事項の記入欄を設け、常に利用者の意見を受け取れる環境を設けている。窓口では職員が、利用者や相談者に話しやすい雰囲気ですら丁寧に対応した。

(5)利用団体の交流会を 12 月に実施。笑いヨガを楽しんだ後、掃除する部屋をくじで割り当て、日頃交流のない人と一緒に大掃除を行った。

5 業務に関する研修

(1)施設の管理運営に関する研修

- ・防災実習訓練:全員参加
- ・救命救急訓練:全員参加

(2)個人情報保護に関する研修

実施日:4月4日

(3)生涯学習、社会教育等に関する研修

- ・横浜市教育委員会 市民活動・地域活動 新任者研修(4月28日)
- ・市民局主催ネットワーク会議(12月18日、2月28日)

出前研修の実施

- ・栄区出前研修(11月10日)
- ・中区出前講座(12月13日)
- ・南区出前(12月2日、2月27日)

名古屋市女性団体、教育委員会

- ・打ち合わせ(8月5日)
- ・社会教育コーナーの視察と懇談会(9月28日)

社会教育実習生の受け入れ

- ・東海大学政治経済学部 4年生
全13日、40時間、
実習生の企画運営講座の実施「ボランティア入門(ゴミ拾い&まちあるき体験)」
- ・創価大学 通信教育課程 4年生(社会人)
全6日、27時間

◆ 保守管理維持管理報告書

業務	頻度		備考	実施日・結果等
設備建物維持管理 (建築・電気・消防設備)	5回／ 月	管理者点検	職員による点検	別紙「管理者点検」のとおり
	3回／ 年	定期点検	業者による点検 消防法上必要書類一式 点検及び館内点検	別紙「設備点検報告書」の とおり
空調設備の清掃	6回／ 年	定期点検	業者によるフィルター・掃除・点検	別紙「定期清掃作業報告書」の とおり
第一種特定製品点 検(空調設備)	3回／ 年	定期点検	室外機、室内機	別紙「簡易点検チェックシート」 のとおり
自動ドア点検	2回／ 年	定期点検	自動ドア専門メンテナンス	5月8日:各部清掃、締付け 10月2日:各部清掃、締付け
自動火災報知設備 点検票	2回／ 年	定期点検	専門メンテナンス	5月8日、11月6日 異常なし
防火対象物点検	1回／年	点検	消防法上必要書類一式点 検及び館内点検	10月18日 異常なし
清掃業務	平日	日常清掃	シルバー人材職員による各 部屋とトイレ・回廊等の清掃	
	1回／ 2か月	定期清掃	業者による清掃:床ワック ス、網戸、ガラス、換気扇等 中心	4月3日、6月5日、8月7 日、10月2日、12月4日、2 月5日別紙「定期清掃作業報 告書」のとおり
	日曜・ 祝日	日常清掃	スタッフによる各部屋と トイレ・回廊等の清掃	
小破修繕	随時			下欄内訳のとおり

小 破 修 繕 内 訳			
対応月	内 容	対応月	内 容
10月13日	ガラスピート交換	11月6日	テニスコート補修
11月7日	男子トイレ手すり取り付け	12月6日	テニスコート補修
11月7日	女子トイレ手すり取り付け		

◆自主事業報告書

事業の目標1 社会参加

主体的な参加のきっかけづくり

① 社会教育の場の運営

利用者が主体的に活動にかかわれるよう、毎回の挨拶や声かけなど職員が利用者とのコミュニケーションを積極的に図った。

新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行後は手洗いや手指衛生、換気の徹底を引き続き行いながらも、マスクの着用を個人の判断に委ねるなど、活動促進に向かう雰囲気をつくった。利用時間の5分前には掃除を終えていただき、次の利用者の入室を促し、スポーツ広場では雨の日の後のコート of 整備、落ち葉の掃除をし、利用者に気持ちよく使っていただくことを心掛けた。

スタッフは窓口業務をより確実に正確に行えるよう努力するとともに、利用者の声を受け取れるように風通しの良いコミュニケーションをとり、利用者に使いやすい施設となるよう努めた。常に工夫と提案を出し合いながら市民にとってより使いやすい施設運営を行っている。

② ホームページの管理

- ・利用者が見やすく、わかりやすいページを意識し、発信した。
- ・施設の空室状況を毎日更新することで、利用者が活動予定を立てやすいようにした。
- ・必要に応じて更新した。

③ メールマガジンの発行

- ・毎月1回、希望者にメールマガジンを送付し、施設からのお知らせや実施事業を発信した。

④ ブログ・X(旧ツイッター)の配信

- ・ホームページ内にブログ「学びのとびら」を置き、社会教育に関わる情報を提供した。
- ・X(旧ツイッター)では身近な情報や次のイベント案内等、タイムリーな情報提供を心がけた。

⑤ 掲示板や館内掲示の充実

- ・掲示板に情報内容の「タイトル」を貼り、カテゴリー分けをすることで、情報を取りやすくした。
- ・古い情報を更新し、見やすい掲示を心がけた。
- ・活動団体の作品や発表会の内容などを掲示し、利用者に伝えることで、交流・参加の糸口とした。

⑥ 相談・コーディネート

- ・市民が生涯学習の相談をしやすいよう、明るく丁寧な窓口対応を心がけた。
- ・活動団体につなぐ際には、個人情報保護に配慮するとともに、スムーズに情報提供が行えるように職員間の

共有を確実に行った。

⑦ 読書活動による社会参加の場づくりと交流「おはなしの国」

目的:読書活動に関わる活動団体の活躍の場づくりと市民の読書活動の推進を図る。

日程:全 10 回

対象:主に未就学児とその親

参加人数:205 人

内容:団体をコーディネートして「おはなしの国」を開催した。活動団体にアンケートをとり、実施の希望や内容などを調整し、全 10 回を実施。運営資金や団体への謝金等は助成金(磯子区ふれあい助成金)を活用した。

課題:団体同士でネットワークをつくり当日の運営についても協力ができることをめざし、次年度は団体を越えた合同チームをつくり、協力して活動することでそれぞれにスキルアップをはかる。

⑧ 親子の広場

目的:乳幼児をもつ親同士がともに子育てや社会的課題について学ぶと共につながり、仲間づくりや社会参加の一步を支援する場として開催。

日程:全 8 回

対象:未就学児とその親

参加人数:160 人

内容:季節行事の工作やふれあい遊びを通じて、関わりあう楽しさを体感した。

成果:昨年度の課題であった集客に関しては、チラシ配布や周辺住民への声掛け等、広報活動の努力が実り、事前に定員に達することが増えた。

⑨ 乳幼児親子の交流の場づくり「英語でリトミック等」

目的:乳幼児をもつ親同士がともにつながり、仲間づくりや社会参加の一步を支援する場として開催。

日程:全 6 回

対象:未就学児とその親

参加人数:100 人

内容:親子がリトミックなどを通じて、一緒に遊びながら楽しく交流した。活動団体が運営の力をつけ、チラシ作りや受付なども団体で取り組めるようになった。

⑩ 若者の社会参加【新規】若者企画体験プロジェクト

目的・内容:社会教育実習生として当施設に関わった大学生が企画し、「ボランティア入門」の講座を実施した。

ゴミ拾いというボランティアと、地域を知るための“まちあるき”をジョイントした講座で、もっと地域を知りたいという若者の思いから企画が生まれた。

日程:全 1 回

参加人数:10 人

事業の目標2 つながりづくり

多様な主体との連携・協働の推進

① 学校・地域コーディネーターのネットワークづくり(交流会)

目的:学校・地域コーディネーターの活動現場での課題の共有・情報交換を通し課題解決等を図る。

日程:全3回開催

対象:学校・地域コーディネーター(磯子区内)

参加人数:22人

内容:(第2回)学校・地域コーディネーターが、学校で活動する地域のボランティアに伝える必要のある学校特有のルールや、児童・生徒と触れ合う時の心得について話し合う(第3回)小学校・中学校のイベントで使える雰囲気づくり(アイスブレイク)体験 (第4回)学校で使う書類の書き方、予算の使い方を実施した。

成果:学校・地域コーディネーターは各学校に1人しかおらず、ネットワークを作る前は不安や疑問を解決できずにいたが、他校のコーディネーターとの情報交換や相談ができるようになることで、悩まずに役割を果たすことができるようになった。また互いの疑問を出し合い、市教委の担当主事や磯子区学校連携担当のお話を伺ったり、お互いの事例を出し合ったりすることで、解決の糸口を見つけられることもあった。

課題:磯子区内のコーディネーターで集まることの成果が出てきているので、今後は周りの地域や市域にも少しずつ交流会を広げ、ネットワークを作っていけるようにしたい。

② 図書館と市民活動・生涯学習支援センターの連携支援

目的:図書館と市民活動・生涯学習支援センターが連携できるようコーディネートすることにより、双方の強みを生かした事業の実施を支援する。磯子図書館とは読み聞かせボランティア交流会への情報提供等でつながった関係を今後はさらに深めていく。

③ 紙芝居等を用いた交流会(読書プロジェクト)

目的:読書活動に関わる人や活動をはじめたい人へのスキルアップの機会を通して、読書活動推進のネットワークをひろげ、お互いに学びあう機会の提供を図る。

日程:年3回(大人が楽しむおはなし会(2回)、やってみよう!紙芝居(1回))

対象:各学校の図書ボランティア、絵本が好きな人、おはなしに関心のある人

参加人数 計79人

内容:朗読や紙芝居、絵本の読み聞かせ、特に紙芝居については、初心者用に実施のレクチャーと演じ方の基礎について紹介する講座を行った。

課題:「大人が楽しむおはなし会」は学校ポストと図書館で配布したチラシから定員を越す図書関係者を集めることができた。一方で「やってみよう!紙芝居」は内容が初心者向けに大変効果のあるものであったが、参加者が増えなかった。学校ポストと図書館だけではない、市域のチラシの配布方法、HPや市教委の広報ツールを利用する方法を考えていきたい。

④ 磯子区NPO連絡会への参画

区内 NPO の横つなぎの会。毎月 1 回の定例会において情報交換や研修(インボイス勉強会等)の実施のほか会報を発行。6 月には、いそご区民活動支援センターとの共催で「地域活動フォーラム」を行い、体験講座や交流イベントに参画。今後も連携を深めていきたい。

⑤ 磯子区館長連携会への参画

隔月で区内地域施設の館長が集う情報交換の機会。連携して実施した「いそびゴールデンウィーク 2023」では、当施設もスタンプラリーを実施し、当施設では 273 人が景品を交換した。

⑥ 市内・区内の社会教育関係機関との連携

当法人が青葉区、磯子区、南区の依頼を受け、担い手育成や職員研修の事業を実施している関係を生かしその区の生涯学習担当者との連携を深めた。また、教育委員会の研修で出会った区支援センター職員から担い手講座の相談や学習展開の相談を受けた。

事業の目標3 人材育成

地域の学びと活動を活性化させる人材の育成

① 社会教育・生涯学習関係職員への対応・サポート

・学習支援活動のための環境整備や市民が主体的に活動するために職員が行う支援についてのスキルアップをサポートした。具体的には来館や電話、研修現場などにおいて、担い手育成の講座の内容への相談を受ける。必要に応じて適切な解決が図られるよう助言し、講座や研修の実施などを行った。

② よこはま社会教育士ネットワーク

目的:市内の社会教育士および社会教育士をめざす人たちの情報交換と交流を図る。

日程:全 8 回開催

対象:社会教育士および社会教育士をめざす人

参加人数:76 人

内容:生涯学習の取組事例の紹介や毎回テーマを決め「若者の現状と社会参加」「社会教育支援者の役割と専門性」などについて学び合った。

課題:開催案内の周知・広報、社会教育士関連講座の受講者の参加へつなげていく。

③ 社会教育士を目指す人の育成(全 4 回講座)

目的:地域の課題を解決するための学びを支える、社会教育士を目指す人に向けた人材育成講座。受講者が講座終了後、各区で学びを支援する担い手として活動できるようになることを目指す。

日程:全 4 回

対象:地域で市民活動をしている人、社会教育士または社会教育士をめざす人

参加人数:60 人

内容:地域の課題解決に関わるプログラムの企画立案方法をグループでワークしながら実践的に体得する。他者と話し合いワークをすることで、社会課題の捉え方、ファシリテーションスキル、合意形成の方法など

を身につける。

成果：講座参加者が「よこはま社会教育士ネットワーク交流会」に参加し、称号取得のための取り組みを始めた。

④ 地域活動の担い手育成

「ファシリテーション講座」

目的：市民活動団体の会議や市民企画事業の会議など、会議ファシリテーションについて学び、地域づくりの実践的な力をつける。

日程：全1回

対象：地域活動の担い手、地域で市民活動をしている人、テーマに関心のある人など

参加人数：15人

内容：市内で生涯学習、社会教育、市民活動に関心を持つ市民が、ファシリテーションの目的や技術を学び、学んだことを地域で活かし、学び続けるきっかけとした。

成果：ファシリテーションはその場や人、目的によってさまざまな方法があることを知り、実際にファシリテーションを体験することで、実践に役立つ技を持ち帰ることができた。

⑤ 地域防災 防災から考える地域づくり

「防災のための紙芝居&救急法」

目的：専門家と連携し市民の地震防災・救急救命などを学び、地域防災の啓発・理解を促進する人材を育てる。

日程：全1回

対象：一般市民、学齢期の子どもと親など

参加人数：20人

内容：現役の消防士及びその仲間がいる団体と一緒に参加した市民が、日頃から防災に必要なことをクイズで答えたり、実際に起きた際の行動などについて楽しく学び合い、防災意識の向上に努めた。また、心肺蘇生法、AEDの取り扱いなどについて実演した後、体験した。

成果：手作りの紙芝居に子どもたちは見入っており、楽しみながら救急連絡の方法などを学んでいた。また消防士による救命救急法など実体験できたことが効果的であった。

新たな地域課題への取組

① 困難を抱えた子どもたちへの学習支援

目的：さまざまな理由で学習に困難を感じている小中高生の学習面をサポートすることで、より生き生きとした生活が送れるよう支援する。

日程：全137回

対象：学習に困難を抱える学生

参加人数：2,010名

内容：学習や社会生活などで不安を抱える子どもたちの学びの場「自習支援ばれっとる一む」「いそご勉強会」

課題:子どもだけで通ってくるため、保護者が一堂に会する機会がなく会としての情報共有が難しい。

② 発達が気になりな子どもをもつ保護者のピアカウンセリング

目的:発達が気になりな子どもをもつ保護者同士のピアカウンセリングの実施し、保護者の仲間づくりの場を提供する。

日程:全 11 回

対象:発達が気になりな子どもをもつ保護者

参加人数 延べ 80 人

内容:個別級・通級・放課後サービス等、他では得られにくい情報について先輩ママから聞くことで、少し先の将来について見通しが立ち、安心することができる場となった。

成果:他のエリアにもこのような場をつくりたいとの声があり、立ち上げの支援をおこなった。

広報・周知

- ・広報よこはま磯子区版および磯子区民活動支援センターの情報誌「いそつな」に各種開催の事業情報を掲載した。
- ・教育委員会生涯学習支援課を経由し市内関係各所にチラシ配架を依頼した。それによって、学校の図書に関わるボランティアさんの参加が増えるなど、効果が顕著だった。
- ・地域情報紙「タウンニュース」「はまかぜ」などに講座情報を掲載するほか、磯子区役所や図書館、地域の子育て支援施設等にチラシを配架。「まちの掲示板」に事業チラシを貼るなど幅広く周知した。
- ・当施設のホームページのほか、法人のホームページ・メールマガジン・会報紙においても、事業について発信し、多様な人に情報が届くように努めた。

その他の取組み

① 利用者アンケート

目的:利用者アンケートを行うことで、ニーズや要望など把握し、よりよい施設の運営にいかしていくこと。

日程:11月1日から11月30日

対象:施設利用者 計 202 名の回答

内容:コーナーを利用している団体に利用している部屋、施設の使いやすさ、窓口の対応、手続き予約方法、他団体との交流、今後のイベント等の希望、その他ご意見などを伺った。

《結果概要》

特に施設の使いやすさについては、85%使いやすいと回答があり、窓口の対応についても、約96%がわかりやすくとあり、記述にも、明るく丁寧な対応が良いとの評価が多かった。

手続きや予約方法については、現状のままで良いが約73%、改善すべきが約11%でその理由がWeb予約が出来るとうまい、キャンセルについての条件の変更などの声があった。

また、他団体との交流の機会については、不要が約 67%、交流の機会や発表の場があると良いという意見が約 33%であった。

② 利用団体交流会

目的:コロナ禍で中止していた年末の大掃除を再開すべく、社会教育コーナー主催で「笑いヨガ」の体験をしてもらい、くじでグループになり掃除をし、その後利用団体同士の交流会を行った。

日程:2月8日

参加人数:17人

内容:笑いヨガの体験で知らない人同士も笑い合い、仲良く掃除をする雰囲気がつくられた。

その後他団体の人同士でグループになり、互いに話をしながら掃除を行った。掃除をしたグループ毎に自己紹介などをしてお互いを知り合った。

成果:また「笑いヨガ」をやりたいという声が多く、掃除をする前に一緒になって楽しくウォーミングアップをすることが有効であることがわかった。

課題:来年度はもう少し多くの団体に参加してもらえると良い。

③ 利用者会議

目的:登録団体による利用者会議を実施し、意見交換の内容を管理運営に生かすことで、市民による市民のための施設を目指す。

日程:2月8日

対象:登録団体の代表

参加人数:10名(団体代表6人、当施設4名)

内容:実施したアンケートの結果を参加者に説明し、当施設から事業内容や運営についても伝えた。

利用者からはそれぞれの活動内容から見た日頃の施設利用に関する意見交換を行い、活動形態による細かな希望から、部屋の申請等の共通の話題が出され、より利用しやすい施設になるよう話合った。すぐに改善できること(花壇の整備をボランティアでやりたい。ピアノの調律はいつやっているのか、など)はコーナー職員ですぐに対応し、Web予約の導入、申込のデジタル化、交流スペースの絵のモチーフの移動などについては、市教委に共有した。

④ 市民活動・生涯学習支援センターとの関係づくり

出前講座や社会教育研究会などを通して各区の市民活動・生涯学習支援センター職員と顔の見える関係ができた。引き続き、コミュニケーションを深めることで、当施設へのニーズを把握し、事業や施設運営に生かしていく。

⑤ 事業アンケート

事業開催時に毎回アンケートを実施した。感想のほか、参加者理由や情報元などを聞くことで、次の事業の参考とした。

職員研修

- ・毎月の休館日を職員研修に宛て、そこで生涯学習・社会教育について、個人情報保護について、AED 研修など、毎回テーマを決めて研修を実施し、利用者のニーズに応えられるよう取り組んだ。
- ・横浜市からの案内のあった研修のほか、外部の研修も積極的に受講し、専門的な知識やスキルアップの機会とした。
- ・出前講座や社会教育研究会などを通して各区の市民活動・生涯学習支援センター職員と顔の見える関係ができた。引き続き、コミュニケーションを深めることで、当施設へのニーズを把握し、双方の事業・施設運営に生かしていく。